

## 2 四つの方向性を実現する施策

### 推進施策の体系図

#### 暮らしの情報化



#### 安心して健やかに暮らせるまち

- 保健・医療・福祉関連の情報化
- 防災・防犯関連の情報化
- 環境・リサイクル関連の情報化



#### 楽しく豊かなまち

- 学校教育関連の情報化
- 生涯学習関連の情報化
- 地域活動関連の情報化

---

## 地域経済の情報化



### うるおいのある元気なまち

- 産業関連の情報化
- 就労関連の情報化
- 交通関連の情報化

## 行政の情報化



### 便利で快適なまち

- 行政手続関連の情報化
- 開かれた行政関連の情報化
- 行政内部関連の情報化

## 方向性1 安心して健やかに暮らせるまち（イキイキ情報化）

### 分野1 保健・医療・福祉関連の情報化

#### 現状と課題

西東京市では、地域福祉計画を始めとする保健福祉関連の各種計画に基づき、誰もが住みなれた地域で、質の高いサービスを利用しながら、安心して暮らし、自分らしい生き方を実現できる、人にやさしい福祉のまちづくりを進め、超高齢化社会への対応やまちのバリアフリー<sup>（注37）</sup>化に積極的に取り組む必要があります。また、急速に発展する情報化社会に対応するため、情報のデータベース化や関係団体とのネットワーク化などが求められています。

今後は、地域で支える福祉の基盤づくりを目指し、保健・医療・福祉の情報の共有化を進め、地域で安心して暮らすための、一人ひとりにあった質の高いサービスを選択し、利用できる情報提供の仕組みづくりが課題となっています。また、市民の誰もが必要ときに必要なサービス情報等をひとしく入手できるようにするため、情報の一層の充実を図るとともに、誰もがITの利便性を享受できるよう情報のバリアを取り除くことが課題となっています。

#### 施策の方向性

関係団体や医療機関と連携した保健・医療・福祉の情報やサービスの一元的な提供（ポータルサイトの構築）

地域の人材と連携したIT利用への支援体制の充実

#### 優先して実現したい推進施策

##### 保健福祉サービス等情報提供システム

市が提供する保健福祉サービスについて、わかりやすく情報を提供するとともに、サービスを検索できるシステムです。

#### 連携が必要な地域のプレイヤー

医療機関 介護保険事業者  
NPO ボランティア  
関係団体 行政

#### その他の推進施策

在宅介護支援センターネットワーク  
障害者ネットワークづくり支援事業  
保健福祉情報の共有化の推進  
保健福祉総合システム

（注37）バリアフリー：バリア（障壁）をフリー（のぞく）、つまり障壁となるものを取り除くこと。高齢者や障害者だけではなく、全ての人にとって日常生活の中で存在するあらゆる障壁を除去することを意味する。

## 保健・医療・福祉関連の情報化が進むと・・・



Aさんは、ひとり暮らしの高齢者です。

もともと腰に持病があり、しばしば病院に通っています。

普段は、自宅から300mほど離れたコミュニティバスのバス停まで歩いて、そこからバスに乗っているのですが、腰の調子が悪いときには、NPOの支援を得て移動サービスを受けています。この手配は電話を通じて予約をし、配車をしてもらっています。

こんなサービスを活用できるようになったのは、Aさんの家のテレビがインターネットに接続され、常時市役所・病院と音声の交信ができるようになってからです。また、見守りネットワークのBさんは、何でも地域のポータルサイトで調べられるから、いつでも声をかけてね、と言ってくれます。

Aさんは、何か不安なことがあれば、すぐに病院に相談することができますし、これまで、自分で調べなければならなかった病院の場所や電話番号、介護事業者の電話番号などを近所のBさんや市のコールセンターからすぐに入手できます。自分の健康に関して不安なことがあれば、すぐに確認し、相談できる環境が整い、Aさんは安心して生活できるようになりました。

## 分野2 防災・防犯関連の情報化

## 現状と課題

西東京市では災害対策基本法に基づき、防災会議を設置するとともに、西東京市の地域に係る災害の対策に関して、総合的に災害発生への防御並びに災害の拡大防止等の万全を期すことを目的とした「西東京市地域防災計画」を策定し、防災行政無線や東京都災害対策情報システムとの連携の整備に取り組み、災害時に役立つ情報や台風情報などの提供に努めてきました。

また、防犯面では、安心して生活できるまちづくりを進めるため、防犯協会との連携を図りながら取り組みを行ってきました。

今後は、災害や防犯情報の速やかで正確な収集と市民の生命、財産にかかわる情報の迅速かつ的確な提供を行うための体制づくりやGIS<sup>(注38)</sup>や高所カメラ、防犯カメラの活用が課題となっています。

また、災害時や犯罪発生時の状況を速やかに把握するためには、市民、事業者、団体等の協力を得ることが不可欠であるため、インターネットや携帯電話を活用した情報収集体制の整備が課題となっています。

## 施策の方向性

IT機器を活用した迅速かつ正確な情報の収集・提供体制の整備  
 関係団体との情報共有を進めるネットワーク等の整備  
 犯罪を未然に防止するためのITの活用

## 優先して実現したい推進施策

## 災害情報提供システム

平常時の防災情報及び災害発生時に住民が最適な行動をとることができるように、災害の規模や被害状況、安否情報や復旧情報等を防災無線や地域コミュニティ放送、CATV、インターネット等のさまざまな方法で市民が情報を把握できる環境となります。また、高所カメラを導入することにより、災害発生時に市内の状況を素早く把握できるようになります。さらに、災害時以外での活用として防犯対策に役立てることも考えられます。

## その他の推進施策

緊急時連絡ネットワーク

## 連携が必要な地域のプレイヤー

自治会 町内会  
 地元企業 地元商店街  
 NPO ボランティア  
 関係団体 行政

(注38) GIS (Geographic Information System): 地理情報システム。地図をコンピュータで扱うためのシステムで、道路や建築物、水道管、ガス管、電話回線などのライフラインや土地の所有権情報などを蓄積する。施設管理、マーケティングの支援、カーナビゲーションなど様々な分野で活用されている。

## 防災・防犯関連の情報化が進むと・・・



Cさんは、海外で生まれ育った日本人学生です。

地震が少ない国からきたCさんは、日本は地震が多いので、ぐらっとゆれるたびにびくびくします。そんなとき頼りになるのは、市が整備したというさまざまなメディアを利用した双方向の防災支援システムです。

普段から、広域避難場所やいざというときの対処法などの情報が地域のケーブルテレビ局やコミュニティFM放送局から定期的に放送されていますが、大地震などの災害が起きたときには、マルチメディアタワーに設置された高所カメラや商店街に設置された防犯カメラから地域の災害状況をいち早く放送するようになっているほか、携帯電話からも災害情報を入手することができますし、逆に自分から情報を携帯電話で伝えることもできるようになっています。

また、災害時に携帯電話の利用が制限された時でも情報の受発信ができるよう、市内の要所には有線でつながる公共端末が設置されており、多重のネットワークになっているので安心です。

いつでもどこからでも災害に関する情報の入手と伝達ができると聞いて、Cさんは安心しています。

## 分野3 環境・リサイクル関連の情報化

## 現状と課題

西東京市は、大気汚染や水質汚濁などについて監視体制の充実を図り環境保全に努めるとともに、市自らが環境負荷の低減を図るため、ISO14001<sup>(注39)</sup>の運用を開始するほか、節電のためのエレベータの休止や昼休みの消灯などの取り組みを行ってきました。また、リサイクルについても市内のコピー用紙等には再生紙を積極的に利用するなど、リサイクルマーケットを確立させるための取り組みを行ってきました。さらに、児童・生徒向けのホームページの西東京キッズコーナーでは、環境やリサイクルに関する情報をわかりやすく提供し、児童・生徒に対する情報の充実にも取り組んできました。

今後は、環境にやさしい循環型社会を構築するため、身近な生活や事業活動、行政活動の中で取り組める環境負荷の少ない具体的な取り組みを地域で共有するとともに、取り組んだ活動の成果等についても情報発信できる仕組みの構築が課題となっています。また、これらの環境負荷軽減に関する情報提供に加え、地域全体の環境やリサイクル意識を向上するための情報拠点の整備が課題となっています。

## 施策の方向性

ITを活用した環境・リサイクル情報の共有化  
環境・リサイクル意識向上のための情報拠点の整備

## 優先して実現したい推進施策

環境学習・活動支援センターと環境情報提供システム

森林保護、生物保護、リサイクル、フロンガス問題、地球温暖化等幅広い環境学習を支援するための情報拠点となります。

## 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
地元商店街 教育機関  
関係団体 行政

## その他の推進施策

(仮称)リサイクルプラザとリサイクル支援システム  
環境情報メールマガジン

(注39) ISO14001：国際標準化機構（ISO：International Organization for Standardization）が定めた環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）を構築するための仕様書。EMSとは、組織活動によって生じる環境への負荷を常に低減するよう配慮・改善するための組織的な仕組みのことである。また、ISO14000シリーズは、環境マネジメントシステムに関する国際規格であり、組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められている。この他に、ISO9000シリーズ（品質管理規格）が有名である。

## 環境・リサイクル関連の情報化が進むと・・・



Dさんは、最近帰宅すると楽しみにしていることがあります。  
それは、市が発行している「環境メールマガジン」を読むことです。

「環境メールマガジン」には、毎号「節電のために」「節水のために」「車の排ガスを減らすための運転方法」「みんなで実現するノーマイカー水曜日」等、その月のテーマを決めて、環境負荷を軽減するための方法が具体的に書かれているからです。市民の役割として、自分でやれることは積極的にやろうと思っています。

Eさんは、地域のケーブルテレビ局で放送される環境学習番組を一家で見ることになっています。この番組は、市の環境学習・活動支援センターが制作したもので、内容としては、市内でリサイクルされたビン、缶、ペットボトル等がその後どこに運ばれてどのように再生品化されるのか、またそのときのお金の負担がどうなっているか等を実際の事例や映像で見られるのです。

Eさんは、番組を見てリサイクルの効果を実感するたびに、分別・再資源化の必要性を家族で話し合っています。



## 方向性2 楽しく豊かなまち（ワクワク情報化）

### 分野1 学校教育関連の情報化

#### 現状と課題

教育改革が進み、平成14年度から新学習指導要領が実施され、学校教育分野では「基礎的な知識や技能をもとに、自ら考え自ら判断する力の育成」、「個性を生かす教育」等が求められています。西東京市においても、学校選択性を導入するなど、各学校においてわかる授業、一人ひとりを大切にした授業等、指導方法の工夫改善や特色ある学校づくりに取り組んできました。また、情報化社会の進展に伴い、情報教育の重要性が高まり、学校間ネットワークやパソコン教室、校内LANの整備等にも取り組んできました。

今後は、地域ぐるみで子どもたちを育成していくため、学校内のIT活用だけでなく、学校と家庭、学校と地域を結ぶためのITの活用が課題となっています。一方、不登校の増加や問題行動の低年齢化等、児童生徒の「こころ」の問題も深刻になり、豊かな心で学校生活や人間関係を楽しむことができる環境の整備も課題となっています。

#### 施策の方向性

- 学校事務のIT活用
- 学校と家庭や地域を結ぶためのIT活用
- 不登校児童・生徒へのIT環境の整備
- 不登校対策へのITの活用

#### 優先して実現したい推進施策

##### 学校ホームページの充実

学校のお知らせだけでなく、児童・生徒がインターネットを活用して情報発信を行う場として、学校ホームページを活用します。

##### 不登校児童・生徒サポート情報ネットワークシステム

適用指導教室に通級しながら在籍校の担任教師等とのふれあいを促進したり、在籍校の授業にネットワークで参加することができます。

#### 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
教育機関 PTA  
関係団体 行政

#### その他の推進施策

- 学校図書館システム
- 学校間授業交流
- 教育用ソフトの充実

## 学校教育関連の情報化が進むと…



Fさんには、市内の小学校に通う子どもがいます。

学校行事やPTAの会合について、学校からお知らせをもらっていても、つい忘れてしまったりすることもありました。

でも最近、市では、インターネットを活用し、学校のイベント情報をホームページに掲載するようになりました。また、登録さえしておけば、お知らせのプリントを子どもに配布した日に、携帯電話に同じ内容の電子メールが来るようになりました。Fさんは、勤務中でも携帯電話に連絡が来るようになり、帰宅してからの子どもとの会話が楽しみになりました。

学校側も、電子メールを活用するようになって、一旦配信先を登録しておけば同時に情報を配信できるだけでなく、配信先の変更も家庭側から簡単に行えるため、情報が届かないという苦情がなくなりました。

明日は遠足なのですが、天気予報は雨が降るかもしれないと言っています。

これまでは、早朝に連絡網が回ってくるのですが、順番が後の方だと連絡の到着時間が遅くなってしまい、中止かどうかヤキモキすることもありましたが、今は全家庭に同時に情報が届くので何の心配もありません。

## 分野2 生涯学習関連の情報化

### 現状と課題

西東京市では生涯にわたる学習活動を支援するために、図書館や公民館、財団法人西東京文化・スポーツ振興財団が講座や教室を実施し、学習機会の充実を図ってきました。また、利用者の利便性を向上させるため、インターネットを活用して、公共施設や蔵書の検索・予約サービスを実施しています。

今後は、インターネットを活用した生涯学習情報の一元的な提供や学習活動を通じての市民の交流の活性化などが課題となっています。また、市が保有する文化財や市民が創作した作品の展示をインターネット上で行うための環境整備が課題となっています。

### 施策の方向性

ITを活用した生涯学習情報の一元的な提供

ITを活用した文化財や市民の作品の展示

### 優先して実現したい推進施策

#### 生涯学習情報提供システム

市が保有する生涯学習の情報だけでなく、市民・NPOが推進している生涯学習の内容等についても提供できるシステムとするとともに、市内外で活躍する人材の情報を一元的に提供できるシステムです。

### 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
関係団体 行政

### その他の推進施策

学校パソコン教室を利用したIT講習会

市民デジタルギャラリー（注40）

図書館利用者インターネットシステム

マルチメディアレファレンスサービス（注41）

公民館利用者インターネットシステム

（注40） デジタルギャラリー：インターネット上の展示のこと。

（注41） レファレンスサービス：図書の保有確認、貸し出しの有無等を検索するサービスのこと。

## 生涯学習関連の情報化が進むと・・・



Gさんには、小学生の子どもがいます。

子どもにこま回しを教えてくれとせがまれているのですが、Gさんは子どもの頃あまりこまが得意ではなく、子どもに満足してもらえないか不安でした。

困ったなああと、コミュニティポータルサイト<sup>(注42)</sup>を見ていたら、「一芸名人人材バンク」というコーナーがありました。ひょっとして、と思って見てみると、いましたいました、こま名人が。それも結構近所に住んでいる高齢者の方です。

電子メールで連絡をとると、今度の日曜日に来なさいという返事。早速子どもを連れて、たずねてみました。

名人の技を見て息子はびっくりです。教えてもらおうと、すぐにコツをつかんで、夢中で、こまを回しています。あまり面白そうなので、自分も教えてもらい、子どもと一緒に楽しんでしまいました。こんなすごい人がいたのかと、感心していました。

Gさんは、人材バンクの仕組みに感謝するとともに、今度は自分がまちの歴史を教える側に回ろうと、早速人材データベース<sup>(注43)</sup>に登録することにしました。

住民の知恵が子どもを育てるっていいですね、とGさんは友人に話しています。

(注42) コミュニティポータルサイト：地域の様々な情報、コミュニケーションの場となるサイトのこと。

(注43) 人材データベース：人材に関する情報をデータベース化したもの。データベースとは、情報を体系的に整理したデータの集合体のこと。

## 分野3 地域活動関連の情報化

### 現状と課題

生活の基盤である地域社会は、都市化や核家族化の進行とともに、住民同士の連帯感も希薄になりつつあります。さらに合併して誕生した西東京市においては、より一層の一体感の向上が求められるところです。

今後は、市民の交流を活性化することにより、住民同士が「支えあえる」地域であるために、気軽に情報交流を図ることのできるコミュニティを形成することが必要となります。

地域情報化の中では、ITを活用した交流の場を形成することにより、時間や場所にとらわれないコミュニティを創出することが課題となっています。

### 施策の方向性

ネットコミュニティの構築

関連情報ポータルサイトの構築

### 優先して実現したい推進施策

電子会議室

市民間の情報や意見の交流を促進するため、運用のルールやセキュリティに配慮しながら進めます。

連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
関係団体 教育機関  
行政

### その他の推進施策

子育て情報ポータルサイト

地域活動団体ポータルサイト

公民館利用者インターネットカフェ

## 地域活動関連の情報化が進むと・・・



Hさんは、会社に勤める女性です。

学生の頃、オーケストラでフルートを担当していたこともあって、子どもやお年寄りの前で演奏する機会があればいいなと考えていました。最近、市のホームページを見て、オーケストラサークルのメンバーを募集していることを知りました。

早速、オーケストラのネットコミュニティに参加してみると、大歓迎され、次の定期演奏会に向けて練習に参加することになりました。練習日等のやりとりもすべてインターネットで行えるので、日中会社に勤めているHさんにとっても、大変便利で助かっています。

さらに、最近、市ではコミュニティセンター<sup>(注44)</sup>に「ここっとカフェ」というインターネットカフェをオープンしたのですが、ここがオーケストラのメンバーが顔をあわせる場所になっています。ここには、コンサートを聴きに来ている常連さんやクラシック音楽の大好きな人もたくさん集まるので、コンサートの曲を選ぶ際にも、みんなの意見を聴きながら決めています。

今では「ネットコミュニティ」と「ここっとカフェ」は、地域の音楽好きをつなぐ大切なネットワークになっています。

(注44) コミュニティセンター：地域社会の社会文化活動の中心となる各種公共施設のこと。主に集会所や公民館などのことをいう。コミセンと略すこともある。

## 方向性3 うるおいのある元気なまち（キラキラ情報化）

### 分野1 産業関連の情報化

#### 現状と課題

西東京市の農家については高齢化が進んでいますが、40歳台の従事者数の増加など、一定の後継者がおり、農業継続に対する意向は高いものがあります。しかし、相続等で農地を手放さざるを得ない状況があり、農地及び農家戸数は共に減少傾向にあります。

商業については、市内一般商店の零細性が強く、消費の市外流出の傾向が高い地域特性があります。

また、工業においては、大規模な事業所の市外転出が続き、市内中小企業に少なからず影響を与えています。

今後は、市民の農地保全に対する要望が高いため、農地の減少をできるだけ少なくする方策が重要となっています。加えて、農業生産の向上、担い手の育成、農産物流通の見直し、市民と農家との交流などにより農業の振興を図ることが課題となっています。

商業については、個々の商店が輝きを取り戻し、経営意欲のある人達が増えていくことが最も重要ですが、にぎわいのある商店街づくりのため、商店街の組織力強化や、IT技術等を活用した生活者と商業者を結ぶネットワークづくり等が課題となっています。

#### 施策の方向性

ITを活用した消費者への積極的な情報提供

IT活用のための人材育成及び支援策

#### 優先して実現したい推進施策

##### 西東京らしさの情報発信の充実

ホームページ等を通じ、ユニークな商店や商店街を紹介し、西東京市ブランドの商品情報の発信を行うとともに、市民が感じた西東京らしい情報を発信するための電子掲示板等の機能についても検討します。

##### 商店・商品データベースの形成

商店のインターネット活用を支援するための、商店・商品データベースです。

#### 連携が必要な地域のプレーヤー

商工会 地元企業  
NPO ボランティア  
関係団体 行政

#### その他の推進施策

多様な情報媒体の活用

商店・商店街の情報化

地域ICカード<sup>(注45)</sup>

(注45) 地域ICカード：特定の地域において利用できる地域密着型で多目的用途のICカードのこと。地域で使うことによりメリットを享受できる。ICカードとは、キャッシュカードのようなプラスチック・カードにICチップを埋め込んだもので、従来の磁気カードよりも大容量のデータを記憶できるとともに、高度な安全性を備えている。

## 産業関連の情報化が進むと・・・



Iさんは、主婦です。

普段は、駐車場の大きいスーパーマーケットに車で買い物に行くことが多いIさんですが、最近は近所の商店街を利用するようになりました。

というのは、毎日夕方4時になると、商店街の八百屋さんや魚屋さん、肉屋さんから、携帯電話に電子メールで、新鮮野菜やお得な安売りの情報が送られてくるからです。

最近は携帯の電子メールで食材を決め、ホームページのレシピを参考に夕飯のメニューを決めるようになりました。また、たびたび商店街を利用するようになり、お店の方とも親しくなったせいか、いろいろな料理まで教えてもらっています。たまに、「今日はサービスだよ」などとおまけまでつけてくれるようになりました。

最近Iさんは、商店街で買い物をすると得した気分になれるので、メールが来るのが楽しみになりました。



## 分野2 就労関連の情報化

### 現状と課題

現在の経済状態はバブル崩壊後の不況から脱出することができず、失業率の高止まり等、雇用失業情勢は依然として厳しい状態が続いています。また、経済社会状況の変化等により、求人と求職者とのミスマッチが生まれています。

西東京市では、毎月田無保谷地域各1回、公共職業安定所からの移動ハローワークを開設しているほか、就職相談会「仕事フェア in 西東京」や再就職支援セミナーを開催しています。

今後は、本市から公共職業安定所までの交通アクセスが不便なため、市内で求人情報の提供ができる拠点づくりが課題となっています。また、将来的には、IT技術等を活用することによって求職者が求人情報を容易に取得できるような仕組み作りが望まれています。

### 施策の方向性

- ITを活用した就労情報の提供
- IT活用のための人材育成及び支援策

### 優先して実現したい推進施策

- ハローワークと連携した就労情報の提供
- ハローワークとの連携により、公共施設に就業情報端末を設置し、就労を希望する市民の利便性を高め、就労支援を行います。

### 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
地元企業 教育機関  
関係団体 行政

### その他の推進施策

就労支援システム

## 就労関連の情報化が進むと…



Jさんは、再就職を考えている男性です。

最近定年で会社を退職し、再就職を探していますが、なかなか条件のあう会社が見つかりません。

最近、ハローワークの就業情報端末が市役所に設置されたので、電車やバスを乗り継いで、わざわざ遠くまで行かなくてもよくなりました。

ところで最近、市では、ものづくりを考える市民会議室を開設したと聞きました。ずっと会社で特許関連の仕事をしてきたJさんにとっては、気になる会議室です。この会議室には、市内の住民、NPOから、新しい製品やサービスのアイデアが続々と寄せられているようです。

これらのアイデアと市内事業者のものづくりのノウハウを連携して、新たな事業の展開を検討するようですが、特許関連の知識があれば是非支援してほしいとのこと。

Jさんは、再就職先を探しつつも、地元発の製品を生み出すための活動に一肌脱ごうと考えています。

## 分野3 交通関連の情報化

## 現状と課題

西東京市は、市内の東西に主要な四つの街道があるため、時間帯や曜日による交通渋滞が慢性化し、さらに駐車場の立地から、週末には空き待ちによる交通渋滞も発生しています。

また、多くの市民が通勤通学で電車を利用するため、駅近辺の駐輪場の確保とともに放置自転車対策を行っているところです。

今後は、渋滞や放置自転車を少しでも減少させるため、駐車・駐輪施設の情報や道路情報等を関係機関や団体と連携して提供できるようにすることが課題となっています。

## 施策の方向性

I T を活用した交通情報の提供

## 優先して実現したい推進施策

## 自転車駐車場情報の提供

市内自転車駐車場の情報を一元管理し、市ホームページから情報の提供をするシステムです。

## 連携が必要な地域のプレイヤー

地元企業 N P O  
ボランティア 関係団体  
行政

## その他の推進施策

バスロケーションシステム<sup>(注46)</sup>

渋滞情報システム

I T を活用した駐輪場システム

(注46) バスロケーションシステム：路線バスが今どの停留所付近を走っているか、あるいはあと何分程度で当該バス停に到着するかを知らせるシステムのこと。

## 交通関連の情報化が進むと・・・



Kさんは、毎日私鉄を使って都心まで通勤しています。

普段、駅までは、バスを利用しています。以前は、毎日、自転車で通っていましたが、駐輪場の契約更新をついっかり忘れてしまい、月ぎめ利用が満車で利用できなくなってしまいました。それからは、たまに寝坊したときだけ、一時利用で駐輪場を使っています。

一次利用は、管理人さんに、財布から小銭を出して使用料を払わなければならないので、朝急いでいるときはとても不便です。

ところが、今月から料金の支払いシステムが変わりました。

定期券がしばらく前にICカード化されましたが、今月から、このICカードに組み込まれた電子マネーで使用料が払えるようになりました。ICカードを管理人さんの端末にふれるだけでOKです。財布から小銭を出す手間が省け、とても便利です。

来月からは、駐輪場の空き情報の検索や予約がホームページからできるようになるそうなので、健康のため、自転車通勤を再開しようかと思っています。

## 方向性4 便利で快適なまち（ラクラク情報化）

### 分野1 行政手続関連の情報化

#### 現状と課題

西東京市は、自動交付機を導入し、住民票と印鑑証明については、閉庁日であっても申請、交付を可能としています。また、電話による請求や委託窓口による交付などにも取り組んできました。

今後は、公的個人認証サービスや市民ICカードなどの基盤が整備され、ネットワーク上での本人確認が可能になります。そのため、インターネットを活用した電子申請や電子入札等への対応が課題となっています。

#### 施策の方向性

- 申請手続の電子化
- 入札事務の電子化
- 申告事務の電子化
- 納付方法の電子化

#### 優先して実現したい推進施策

##### 自動交付機の設置

住民票等の自動交付機の設置場所を一定程度まで拡大することにより、利便性を向上させます。

##### 電子申請システム

自宅のパソコンや公民館等に設置する公共端末から、24時間365日各種申請ができるようになります。

##### 電子入札システム

公共工事等の発注に際し、手続きの効率化及び不正行為を防止することができるようになります。

#### 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
商工会 関係団体  
行政

#### その他の推進施策

地方税電子申告システム

電子納付：マルチペイメント<sup>(注47)</sup>システム

地域ICカード

(注47) マルチペイメント：税金や利用料金等をインターネット、電話、銀行ATM等さまざまな手段を用い、ネットワークを介して支払うこと。

## 行政手続関連の情報化が進むと…



Lさんは、都心のオフィスに通勤しています。

以前から、会社の同僚からサッカーの練習場を確保してくれと頼まれ、市のグラウンドを予約しようと思っていたのですが、窓口に行く時間がなく、困っていました。インターネットで予約ができると聞いていたのですが、会社のパソコンはインターネットが利用できないし、自宅にも、パソコンはありません。

ところが、最近、市報に、都内のコンビニエンスストアの端末で、市の公共施設の予約ができるようになったという記事が出ていました。

そこで、早速、お昼休みに、同僚と会社の近くのコンビニに行ってみました。

コンビニエンスストアで公共端末をのぞいてみると、住民票の申し込みや施設の予約だけではなく、市のホールを使ったコンサートのチケット販売や公民館の講座の申し込みができることもわかりました。

早速、サッカー場の予約をし、ついでに室内四重奏のチケットを予約したLさんは、家に帰って奥さんをびっくりさせるつもりです。

## 分野2 開かれた行政関連の情報化

### 現状と課題

西東京市は、行政情報の積極的な提供を行うため、ホームページを開設し、1課1ホームページの開設を進めています。また、情報公開を積極的に進めるため、文書のデータベース化に取り組んでいます。

今後は、電子的な窓口となる、各課のホームページの内容を一層充実させるとともに、市民が容易に要望や意見を市に伝えられる仕組みの構築や情報開示手続きの電子化などが課題となっています。

### 施策の方向性

電子的な窓口機能の充実

意見、要望等への電子的な対応

### 優先して実現したい推進施策

#### ホームページの充実

市が提供しているサービスや市が保有している情報で公開が望ましいものについては、積極的に公開するものとし、ホームページのコンテンツを充実させます。また、必要な情報に的確に到達できるようにホームページの編集には、さらに工夫を凝らします。

#### 公文書開示手続きの電子化

積極的な情報公開を行うため、文書管理のデータベース化及び開示手続きの電子化を図り、迅速で適正な情報公開の仕組みを実現するものです。

### 連携が必要な地域のプレイヤー

NPO ボランティア  
関係団体 行政

### その他の推進施策

メールマガジン

GISの活用

苦情内容のデータベース化によるサービス向上

相談機能ネットワーク

議会中継の充実

保育園・学童クラブ情報の提供

## 開かれた行政関連の情報化が進むと・・・



Mさんは、卒業を控えた大学の4年生です。

卒論は、「市民参加とまちづくり」というテーマでまとめることにしました。

Mさんが住む市では、行政の情報を積極的に公開していて、市のホームページから、いろいろな情報を簡単に検索することができます。また、行政文書も、市のホームページから簡単に検索して、開示請求することができます。

市のホームページから、卒論のテーマに役立つような情報を探してみました。キーワードを入力して、検索すると、市民参加に関するこれまでの市の取り組みを紹介する情報がたくさんヒットしました。

Mさんはさっそくホームページから必要な資料を請求し、簡単に集めることができました。時間に余裕ができたことで、市の取り組みにも積極的に参加し、卒論のテーマをより深く研究することもできました。

大学を卒業したMさんは、卒論の作成をきっかけに知り合った仲間たちとグループをつくり、まちづくりにかかわる活動を続けながら、充実した生活を送っています。



## 分野3 行政内部関連の情報化

## 現状と課題

行政改革を推進するためには、行政事務の簡素化・効率化が必要です。庁内事務の見直しとともに、情報化社会の進展に的確に対応した行政内部の情報化を進める必要があります。

西東京市は、平成13年度に庁内LANの整備と出先機関とのネットワーク化、事務系職員一人1台のパソコン整備を実現しました。

今後は、インターネットの活用に向けたセキュリティ対策の充実と情報サービスの充実にあわせ、より大容量の情報通信ネットワークの整備が課題になると考えられます。また、情報化を進める一方で、職員の情報リテラシー教育やITを活用する意識の向上も課題になると考えられます。さらに、情報通信に関する十分な専門知識を有する職員が少ないという課題もあります。

## 施策の方向性

セキュリティ対策の充実

情報通信ネットワークの大容量化

専門的人材の育成や外部の人材の登用

## 優先して実現したい推進施策

電子決裁システム

決裁システムを電子化することにより、スピーディな執行体制となります。

## 連携が必要な地域のプレイヤー

医療機関 介護保険事業者  
NPO ボランティア  
関係団体 行政

## その他の推進施策

GISの活用

職員身分証明証ICカード化

eラーニング<sup>(注48)</sup>研修

(注48) eラーニング：パソコンやネットワークなどの情報技術を活用した学習形態のこと。特に最近ではインターネットの閲覧ソフトを用いたWEB環境を活用したWBT（Web Based Training）という方法が主流となっている。

## 行政内部関連の情報化が進むと・・・



Nさんは市役所に勤める新人職員です。

Nさんは、仕事を進める上で、多くの押印決裁が必要なことや会議資料の印刷に時間をとられることに疑問を持っていました。何とか時間をつくって市民の要望に応える仕事をするためにはどうすればいいだろうと悩んでいました。

その後、Nさんの勤める市役所に、電子決裁システムが導入され、効率的に仕事ができるようになりました。また外部と電子メールで情報交換できるシステムも導入され、情報収集や事務処理に追われていた時間を、行政サービスの質を高めるためや市民との意見交換の時間に使えるようになりました。

電子メールで要望のあった高齢者と子どものふれあい講座を企画して実施したところ、大盛況に終えることができました。また、その内容をホームページに公開したことにより、市民の皆さんから感謝の電子メールも来るようになり、今は次の講座の内容をわくわくしながら同僚と検討しています。

Nさんは役所の仕事を効率的に行うことの副次的なメリットを実感しました。